

福谷	<p>おはようございます。未来創造ちばの福谷章子でございます。 通告の順番を変えまして一般質問を行います。 <u>まず、業務プロセスの見直しによる市役所改革についてです。</u></p> <p>政令市となつてことしで20年の千葉市です。六つの区を持つ市役所の機能は、常に行財政改革の中で見直しがされ、区への分権をどのように果たすべきか、あるいは改革によって行政ガバナンスの効率化をどのように図るかなど、試行錯誤を繰り返しています。区への分権といっても、本庁機能を6区に分散すれば、人もスペースも設備も6倍、実は必要です。一方、窓口サービスに関する苦情、あるいは相談窓口の一本化への要望、また、わかりにくい手続への疑問など、市民側から課題もこの間多く出され続けています。仕組み自体に課題があるとともに、組織としての意識改革も必要だということに常に感じています。例えば、市民の皆さんからは、改革だ、改革だと言う。最近では議会も改革をしているらしいけれど、市民には実際に何がどう便利になったのかさっぱりわからないよというふうに言われます。やはり、結局、自分たちで大ぶろしき広げて、それで内部の効率化だけ図っているんじゃないの。そんな厳しいことを言われたりします。改革によって市民の利便性が高まった。そんなことを目指さなければならないと感じています。</p> <p>そのような中で、この3月の代表質問において、業務プロセスの見直しによる市役所改革では、ITを活用して業務改善、BPRに取り組むことの可能性、社会保障・税に関わる番号制度の導入によって、いやが応でもこれまでの市役所の業務プロセスを大きく変革させるだろうという予測から、業務プロセスの見直しによる市役所の改革に取り組んでいきたいとのことでした。</p> <p>そこで、業務プロセス改革とは一体どのようなものかと勉強してみたところ、あの図を、プロジェクターをごらんいただきたいと思います。現行モデル、これはアズ・イズと言うらしいんですが、まず、ここをしっかりと見きわめる。で、制度だとか障害だとかを全部考えずに、こうありたいというモデル、将来モデル、1)の矢印の方向ですが、トゥー・ビー、これをまずきちんと見据えようと。しかし、現実には、例えば法律だとか、あるいは慣習だとか、あるいはスペースの問題だとか、ハードの問題などがあって、できないこともある。そうすると、実現可能なモデル、キャン・ビー、これをきちんと分析して、そこを目指そうと、どうもそのようなものらしいのですが。さて、これを行政の仕組みの中でどのように生かすのか。それは市民の利便性を高めることにどうつながるのかという疑問がわきます。</p> <p>そこで、業務プロセスの見直しによる市役所の改革について、周辺の状況も含め現状と方向性について伺いたいと思います。</p> <p>まずは、業務プロセス改革の基本的な考え方についてです。</p> <p>これまでも、行政改革など市役所内の事業や業務に関して、改革という名のもとにさまざまな取り組みが行われてきていましたが、行政改革と業務プロセス改革の違いについて、まずは御説明いただきたいと思います。</p> <p>以上が1問目です。これ以降は自席で行います。</p>
総務局長	<p>いずれも、市民福祉の向上のため、最小の経費で最大の効果が上げられるよう、組織及び運営の合理化に努める行動であります。行政改革は、これまで事務の分野を中心に事務事業の整理合理化、公有財産の適正な管理、活用の推進、定員管理の適正化及び外郭団体改革の推進などに取り組んでまいりました。一方、業務プロセス改革は、すべての業務につきまして実施過程を調査、分析し、費用対効果などに基づき全体を最適化する視点から抜本的に処理方法などを見直すもので、行政改革の効果をさらに向上させるための取り組みでございます。</p>
福谷	<p>すべての業務について全体を最適化する視点から抜本的に処理方法を見直すとのことですが、業務プロセスの見直しに今なぜ着手するののでしょうか。</p>
総務局長	<p>今後の人口の減少が予想され、税収の増加も期待できない中で、本市の将来を考えたとき、現在の都市機能や行政サービスを維持し、多様化する市民ニーズや保健福祉など新たな行政課題へ対応するためには、日々進化する情報通信技術、いわゆるICTやマイナンバーを活用して業務の処理方法や職員配置の抜本的な見直しなどを行うことが必要と考えるためでございます。</p>
福谷	<p>一つ一つの市役所業務の見直しは、都市機能や行政サービスのあり方を左右することは理解しますが、業務プロセス改革に向けた基本的な考え方をお聞かせください。</p>
総務局	<p>業務プロセス改革は、漸進的、応急的な見直しではなく、抜本的な見直しであると考えております。</p>

長	その過程におきまして、本来あるべき業務プロセス、トゥー・ビーと現行制度や実現難易度を踏まえた実現可能なモデル、キャン・ビーを明らかにしたいと考えております。
福谷	先ほどお示した、まさにこの図の流れなのかなというふうに思いますが、これはしかし、従来の縦割りから脱却して横断的に行わなければならないと思いますが、そのための具体的な方策はありますか。
総務局長	本年度は改革を円滑に推進するため、区役所窓口業務と庶務事務の見直しモデルを作成することとし、情報統括部長を委員長に、総務局、総合政策局、財政局、市民局及び中央区役所の課長等からなります業務プロセス改革検討委員会を5月に設置し、部門を超えた総合的な視点から改革の進め方などの具体的な検討を開始したところでございます。なお、区役所業務につきましては、本年4月、中央区役所に新設いたしました区役所業務改善推進室を中心に推進をしまいる予定でございます。
福谷	それでは、平成24年度業務改革に関する有効性調査を行うということをさきの代表質疑で伺いましたが、有効性調査について伺います。 有効性調査の現状とスケジュールはどのようになっていますか。
総務局長	調査に当たり、業務改善のノウハウや他団体における実績を有する民間事業者を公募型プロポーザルで募り、応募した8社の中から新日本有限責任監査法人を委託先として選定したところです。今後、区役所窓口業務と庶務事務からモデルケースを選定し、業務分析、課題の抽出、改革案の作成、有効性の検証などを行い、12月までに来年度以降の業務プロセス改革の取り組みの方向性をまとめることとしております。
福谷	モデルケースから想定される業務プロセス改革の方向性については、どのように考えていますか。
総務局長	モデルケースにおきましては、本市への転入手続などを対象に、ワンストップサービスなど複数の課の連携による市民サービスの向上を、また、手入力作業が多い時間外勤務、旅費計算などの庶務事務を対象にICTを活用した行政運営の効率化を目指し、業務プロセスを見直したいと考えております。
福谷	それでは、先ほどありました中央区の取り組みについて伺いたいと思います。 まず、中央区における業務改善の取り組みについてです。 中央区長に伺います。区役所業務改善推進室ではどのようなことを目指していますか。
中央区長	区役所業務改善推進室では、業務の第一線を担当する区役所の視点から、仕事の効率化や市民の利便性を高めるための手続等の見直し、窓口対応の改善などを目指してまいります。市民の方々が行う行政手続の大半は区役所が窓口となっており、一つ一つの手続を処理する業務のプロセスの中に効率化の余地や市民サービスを高めるための改善の可能性があると考えております。
福谷	業務改善という言葉は幅広く使われていますけれども、どのような改善を意味しているのか。もう少し具体的に説明をお願いいたします。
中央区長	業務改善には二つの視点があると考えています。一つは、行政運営の効率化を図る改善で、業務手順や内部帳票の見直し、ICTの活用などにより、職員がより効率的に業務を進めていく改善です。二つ目は、市民サービスの向上を目指す改善で、市民の方が記入する申請書の書式や添付書類等の見直し、窓口カウンターの改善、待ち時間の短縮など、市民の利便性向上や不便さを解消していく改善でございます。
福谷	行政運営の効率化と市民サービスの向上とのことですが、業務の効率化、それは今度はどうに進めていくのでしょうか。
中央区長	現在、三つのアプローチで進めているところです。一つは、業務のプロセスを可視化し、業務フロー上の無駄の排除やシステム化、委託化などの改善案を検討していく方法。これは情報統括部と連携して進めてまいります。二つ目は、現場で従事する職員から幅広く業務プロセスの問題点や改善アイデアについて意見を募り、これらの課題解決やアイデアの実現を関係部局とともに検討しながら進めていくことによる改善。三つ目は、職員一人一人が身近な改善を推奨し、職場単位での改善運動、改善環境をつくり、職員各人による自発的な改善を進めていく取り組みでございます。
福谷	これら三つのアプローチを通して職員の皆さんの意識改革も少しずつできていくことを願っております。それでは、この三つのアプローチにおける課題は何でしょうか。
中央区長	業務の処理方法は、法律等で事務処理要領が定められていたり、長年各職場で積み重ねてきた工夫の結果でもあり、容易に変更できないケースもあると想定しております。しかしながら、まずは理想的な業務の処理方法を構築し、これを実現していくための工夫と、また、職員の改善していこうとい

	う意識を高めていくこと、これが重要であると考えております。
福谷	<p>長年各職場で積み重ねてきた工夫の結果というのは非常にきれいな言葉ですが、言いかえれば、その因習とかがらみとか、そういうものにも通じるかと思えます。こういうことをやっぱり変えていくということは本当に大事なことです。変えてはいけないものももちろんありますし、変えなきゃいけないものもありますので、果敢に取り組んでいただきたいなというふうに思います。</p> <p>中央区の取り組みの最後は、中央区におけるその業務分析の概要とそれから情報統括部の有効性調査との関係について伺いたいと思います。</p>
中央区長	<p>まず最初に、区役所業務改善推進室において、すべての区役所業務を件数、市民の負担、職員の負担の三つの視点から分析を行いまして、改善効果が高いと思われる業務の洗い出しを行いました。情報統括部による有効性調査は、この中から選定した業務について、専門業者を活用し情報統括部と区役所が連携して業務の可視化から改善案の策定までを進めていくものであります。専門業者が選定した以外の業務については、区役所業務改善推進室で独自に業務分析を進めているところですが、改善案の策定に当たりましては、専門業者の分析手法を参考にしていきたいと考えております。</p>
福谷	<p>専門家の知見を借りながら全庁的に取り組んでいっていただきたいと思います。</p> <p>さて、ところで、マイナンバーについてですけれども、先月、私は社会保障・税に関わる番号制度、いわゆるマイナンバー法の勉強会に参加してまいりました。現在、これは2月に閣議決定されて審議されることになっておりますけれども、社会保障と税の今のそのばらばらな改革のために国民には見えにくい状況になっております。しかし、国のほうはもう既にロードマップをつくっているとのことですので。</p> <p>そこで伺いますが、マイナンバーの活用によって行政内部の仕事のやり方も抜本的に変わる可能性があると言われておりますが、マイナンバーで目指すものというのは何でしょうか。</p>
総務局長	<p>マイナンバー制度は、複数の機関に存在する同一人の情報を関連づける基盤として行政を効率化、スリム化するとともに、国民にとりましては、手続の簡素化などによる利便性の向上や社会保障制度、税制等における給付と負担の適正化などにより、公平、公正な社会の実現を目指すものであります。</p>
福谷	千葉市の対応についてお聞かせください。
総務局長	<p>現在は、国会の動向を注視するとともに、国等の情報収集に努めております。また、今年度から進めている基幹システムの刷新などにおきまして、マイナンバーの導入を見据えた対応を図るとともに、業務プロセス改革におきましてもその活用を検討していきたいと考えております。</p>
福谷	<p>それでは、市長に伺いたいのですが、業務プロセス改革におけるマイナンバーの活用についてはどのようにお考えでしょうか。</p>
熊谷市長	<p>マイナンバーはですね、この国のいわゆる自治体の業務であるとか、市民サービスというものを抜本的に変える可能性があるものだというふうに思います。我が国だけが先進国の中で唯一と言っている、いわゆる国民IDを持たない国であります。私は民間からこの市役所に入りまして、とにかく縦割りが多いその原因の一つに、情報の縦割りというのが存在する。いわゆる国民ID、共通IDがないことによって情報を縦割りに持たざるを得ないという行政独特の縛りがある中で、さまざまな行政サービスというのが古いままでとどまっているというところがあります。そういう意味で、マイナンバーが導入されることによって、そうした阻害要因の一つが取り除かれることになるというふうに思います。もちろん、これは個人情報保護への徹底的な対応が前提ではございますけれども。まあ、そういう意味において、このマイナンバーの活用というものを法改正の暁には積極的に活用してまいりたいと考えております。</p> <p>とは言いながらですね、実はマイナンバーがなくても、今でも本当はできることというのはたくさんあります。ですので、行政サービスというのは、こういうものだという、そういう固定観念をまず捨てて、もう一度、今の社会情勢の中で、一番できる行政サービスとは何かということをもう一度改める。まあ、そういう意味でも、マイナンバーというのが一つの呼び水になるというふうに私は考えています。</p>
福谷	<p>確かに、今でもあらゆる私たちが使える権利に番号づけされている、ナンバーがついていると思います。個人の視点から見ても、それがどうなっているのかわからないという、自分が自分の情報をコントロールできない状況にあるというのは、私は非常に問題であるなというふうには感じています。ただ、マイナンバーについては、さまざまな課題もまだありまして、そのあたりがきちんと説明されていないということは問題であるというふうに思います。それが国会でもきちんと審議されるべきです</p>

	<p>が、今のこの状況の中で、あいまいになっていることは非常に遺憾であるというふうに感じております。</p> <p>それでは、この項目の最後ですけれども、市長はその業務プロセス改革については、これからの都市経営に向けてどう活用しようとしていらっしゃるのか、伺います。</p>
熊谷市長	<p>先ほど、総務局長の答弁にもありましたとおりですね、これからの将来を考えますと、人口減少であるとか高齢社会であるとか、さまざまな課題がありまして、それらに対して適切に対応していく必要があると。まあ、そういう中で不断の見直しが常に市役所内部において必要なわけですけれども、今までのいわゆる上からの改革だけでは、市役所のそうした改革は完成しないというふうに考えております。ともすればですね、この、やられている感ですとか、メスを入れられている感、そういったもので、どうしてもネガティブな反応というのものも、どうしても内部には存在をしております。そういう意味では、下からの改革、いわゆる業務改善が不可欠であると認識をしております。むしろ、ここのほうが市民には直結する問題かというふうに考えております。ICTの活用など周辺環境の変化を活用して、あらゆるコストの削減や市民サービスの向上、そして生み出される財源や人員を新たな市民サービスに再配分することが可能となると考えております。また、この改革を全庁的に推進することで、職員の意識改革が進み、日々の改善マインドが醸成されることとなり、さまざまな施策の向上につなげることが可能になると考えております。これらの結果、市民生活の豊かさが向上し、本市の持続的、自立的な都市経営が実現するものと考えております。</p>
福谷	<p>市役所の電子化の方向性、これは避けられないものかと考えております。そうなってくると、例えばその市役所におけるフロントサービスと、それからバックオフィスの関係なども非常に重要なもので、これは機能だけではなくて、スペースの問題にもなってくるかと思えます。これから市役所のあり方を考えるときに、ハード、ソフトともによくよく考えていかなければならないなと思うところです。</p> <p>それでは次の質問に移ります。</p> <p>子ども施策についてです。</p> <p>初めは、こどもの参画についてですけれども、千葉市は、子供の参画に取り組み始めて3年になります。ちょっとこの図を見ていただきたいと思えます。これはちょっと小さいんですけども、千葉市のこども企画課のホームページからとった子供の参画概念図で、子供施策の取り組みの小学校以降のところ体が体系化されていると思っていただいてもいいかと思えます。短い期間ですが、実にたくさん取り組みが行われてきているなというふうに感じるところです。</p> <p>これらについて、順次伺っていききたいと思います。</p> <p>まず、こどものまちCBTですね。子供の参画を担う子供の育成の場というふうに、オレンジで枠の中に書いてありますが、この事業は、市民と市とが実行委員会をつくって、市の負担金と事業者の協賛金、そして参加費で成り立っております。協働についてのモデルともなり、また、参加した子供たちからも、楽しいという声が圧倒的に多い事業です。</p> <p>こどものまちCBTの成果と今後の展開についてはどのように考えているのか、お聞かせください。</p>
こども未来局長	<p>こどものまちCBTの成果ですが、企画・準備段階から主体的に関与するこどもコアスタッフを初め、子供たちを陰で支える大人スタッフの方々の参加人数が年々増加していること、また、昨年度より、子供の参画の趣旨に賛同する15の企業等より協賛を得ていることから、本事業を通じ子供の参画に関する周知、理解が得られているものと考えております。さらに、本年度より公的機関や民間企業の方々に仕事の内容や留意すべき点などの話を聞く機会を設けるほか、模擬選挙の際のマニフェストの公表や子供の年齢に応じた職業紹介の実施など、参加する子供たちの年齢拡大や町の中で社会体験をする内容等の充実が図られつつあることから、子供の自立及び社会参加に関する意識向上に一定の成果を上げているものと考えております。今後の展開ですが、障害のある子供が参加することにより子供たちがバリアフリーについて考える取り組みを初め、市民との協働の取り組みの強化、さらには周囲の商店街の参加を促し中心市街地活性化の視点を取り入れるなど、事業の充実、拡充を図ってまいります。</p>
福谷	<p>子供たちの活動は、着実にその自立と社会参加に向いていますけれども、そうし向ける大人の役割が実は非常に難しいということを私は感じています。というのは、これには結構長らくかかわらせていただいております。そこで見てみると、子供の参画というのは子供対象の事業のように見えますけれども、実は大人に子供理解と自治意識がなければ子供の自立も社会参加も促せないというふうにひしひしと感じております。したがって、市としては、かかわる大人の育成に力を入れていってほしいなというふうに感じているところです。</p>

	<p>次に、職場探検ランチミーティングについてですけれども伺います。</p> <p>これは、以前も議場で取り上げて、かかわりのあった局長さんたち皆さんに御意見を伺ったことがございます。ことしは、どのような取り組みを予定しているのでしょうか。</p>
こども未来局長	<p>職場探検は、子供たちがグループとなり市の職場を訪問し、実際に見て聞いて体験するとともに、市職員と直接意見交換等を行うランチミーティングを実施した上で、自分たちの住む町の仕組みについて考え、話し合い、市への提案などにつなげる機会とする取り組みです。本年度は、モノレールの魅力再発見をテーマに千葉都市モノレール株式会社へ、自転車について考えようをテーマに本市自転車対策課へ、農業の魅力発信をテーマに農政センターへの職場探検を予定しており、その成果を本年10月に開催予定のこどものカフォーラムにおいて発表することとしております。</p> <p>本年度も、子供ならではの視点や自由な発想で、それぞれの職場に対する提案がなされるとともに、子供たちの主体的な意見発表により、社会参加への意識の向上が図られるものと期待しております。</p>
福谷	<p>そこで、この職場探検の成果ですけれども、子供たちが気づいて提案したことの幾つかは既に実現しております。実に細かなことでも大切なことがあると、はっと気づかされていますが、これはやはり、その市の担当課が丁寧な情報提供を子供たちにしてくださったからだというふうに思っており、これも感謝しております。</p> <p>それから、今出てきましたこどものカフォーラムですが、このために子供たちはワークショップに参加しておりますが、このことについて、次は伺います。</p> <p>こどものカワークショップに参加した子供たちの変化について、何人かの中学校の先生に伺ってみました。子供たちは非常に楽しかった、自信がついたというふうに言っているそうです。また、参加してみたいという子供たちもその周囲にふえているということです。モデル事業としての第1ステップを終えたところだなというふうに感じていますが、次のステップは、それをやはりその地域に広めていって、地域の大人たちに理解していただくことだと思いますが、市がとらえている成果、これの成果とそれから今後の展開について伺います。</p>
こども未来局長	<p>こどものカワークショップは、子供たちが身近な課題について考え、グループ討議などを行った上で研究成果を発表する取り組みであり、これまで約150人の子供たちが参加し、自殺予防といった命の大切さや公園利用、まちづくりなど、さまざまな課題について取り組んでまいりました。なお、実施後のアンケートの結果でも、自分の意見をしっかりと伝えられてとてもいい経験ができた。これからも友だち同士、さまざまなテーマについて話し合いたいなどの意見が多数あることから、子供たちが地域や社会の問題に目を向け、解決策を導くなど、市民としての自覚や責任を持つことができているものと考えております。</p> <p>今後の展開ですが、これまで子ども交流館を中心に開催しているワークショップを他の区にも広げて開催するなど、子供の参加をより広く求めていきたいと考えております。</p>
福谷	<p>ぜひ、地域に広げていっていただきたいと思います。</p> <p>次に、こどもカフェですけれども、今、こどもカフェは美浜区の高洲保健センター跡施設で、昨年ですか、モデル事業として始まって8カ月が経過したところと聞いております。今まで1カ所であったものがことしはもう1カ所予算化されています。昨年新たに始まった事業なので、まず、このこどもカフェへの取り組みの状況とそれから課題について伺います。</p>
こども未来局長	<p>こどもカフェは、信頼できる大人が見守る中で、子供たちが気軽に、かつ自由に過ごせる安全・安心な子供の居場所として、昨年10月より高洲保健センター跡施設を活用し、モデル運営として開始をいたしました。日曜日を中心に20回開設したところ、延べ244人の子供が利用したほか、延べ146人の大学生や地域の方々にボランティアとして参加をいただいております。現在、多くの子供たちがこどもカフェの開設日を楽しみにしており、子供の利用者は昨年度に比べ増加しているほか、異年齢の子供たちとの交流が進み、上級生が下級生をリードして遊ぶ姿が多く見受けられます。また、子供たちとスタッフとの信頼関係が醸成されつつあり、悩み相談などにも応じる場としても機能していることから、安全な子供の居場所として一定の成果を上げているものと考えております。</p> <p>次に課題ですが、子供からの相談等に対応するため、各種行政機関及び地域団体、保護者との連携体制を構築することや子供の居場所としての機能の強化を図ることが必要であると考えております。</p>
福谷	<p>子供たちの居場所として定着し、なお、相談場所にもなりつつあるとのこと。</p> <p>それでは、こどもカフェの今後の展開についてはどのようにお考えか、お聞かせください。</p>
こども未来局長	<p>昨年度からの美浜区での公共施設を活用したモデル運営に続き、本年度は公募により空き店舗等の民間施設を活用したこどもカフェを1カ所モデル運営として実施すべく、本年10月の開設に向けて現在</p>

長	<p>準備を進めております。なお、これまでの運営における課題を踏まえ、運営にかかわる各種行政機関等及び地域団体、保護者との連携体制を構築するため、今後こどもカフェを初め関係行政機関や地域団体により構成するこどもカフェ連絡会議（仮称）を設置する方向で、現在協議を行っております。また、子供の居場所としての機能の強化を図るため、平日開所や開設時間の再検討を行うほか、小学校高学年や中学生が利用したくなるようなプログラムなどにつきましても検討してまいります。</p>
福谷	<p>子供の居場所として推進するのであれば、今の御答弁にもありましたように、私も子どもルームに行かない子とか、行かないその高学年とか、あるいは中学生、しかも部活に参加しないで、行くところがないような子供たち、そういう子供たちをメインのターゲットにこう考えていくべきではないかなというふうに思います。将来的には、毎日の開所、時間も夜7時ぐらいまで開所していることが必要であるのかなというふうに思っています。今回は1カ所ふやすとのことですがけれども、依然としてモデル運営というふうに認識しています。2カ所のモデル運営を多角的に検証して、ぜひとも本格運営につなげていただきたいというふうに思っております。</p> <p>それでは、子供の参画事業全体について伺いますけれども、これまで各種事業実施で、どのように成果として、子供の参画事業があらわれてきているのか。また、全庁的な取り組みについてはどのようにしていくのか、お聞かせください。</p>
こども未来局長	<p>子供の参画事業につきましては、子供のうちからワークショップや職場探検などの参画の場としての取り組みを初め、こどものまちCBT、こども大学などの育成の場としての取り組み、さらには新成人座談会などの市民参加、協働の場としての取り組み等、各種事業を体系的に展開したことにより、子供の主体性や社会性を養うことに一定の成果を上げているほか、これらの事業に市民や関係団体の方々が参加することにより、市民参加や協働といった施策にも役立っているものと考えております。</p> <p>次に、今後の全庁的な取り組みについてですが、これまで各主管課長等で構成することも施策等連絡会議において研修会や意見交換などにより、情報の共有化や協議などを行ってまいりましたが、今後、庁内のさらなる連携、情報の共有化の強化を図り、年間を通じて子供に関する行事やイベント等の情報を一元化し、市ホームページ等により、市民の方々にわかりやすく提供してまいります。また、昨年度、各所管が事業を推進する上で子供の参画を取り入れるための基本的な考え方を示したこどもの参画ガイドラインを策定いたしました。今後、各所管の取組状況を参考に、より効果的な内容となるよう随時改定を行うなど充実を図り、全庁的な子供の参画推進事業の強化に取り組んでまいります。</p>
福谷	<p>子供の参画について、地域や市民との連携強化についてはどのように考えているのでしょうか。</p>
こども未来局 緒	<p>子供の参画を推進するために、地域の方々や市民の皆様の理解及び連携は必要不可欠なものであると考えております。現在、子供の参画に関する理解や協力を得るため、青少年育成委員会を初め、社会福祉協議会地区部会、民生委員児童委員協議会等の地域団体を訪問し、子供の参画の趣旨について説明するとともに、各種事業に対する協力を依頼しております。なお、こどものまちCBTなど各種事業への地域の方々の参加者数は年々増加し、市民との連携が進んできておりますが、今後、市による広報活動の充実やさまざまな団体への呼びかけを実施することにより、施策の周知を図り、地域や市民とのさらなる連携の強化に努めてまいります。また、新たな取り組みとして、地域の方々などを対象とした子供の参画に関する公開講座の開催なども検討してまいります。</p>
福谷	<p>子供の参画に関する公開講座とのことですが、今、前の図をちょっと見ていただきたいと思います。子供の参画は一番上の市民参加協働の場というふうにつながっています。つまり、市民のその市民の自治の場であります。で、これがその、子供たちのところから、こういうふうな市民に育てほしいと願っているわけですが、非常に今のその出前講座でも、ここをきちんと説明していく。こうしてつながって循環しているのだという、この自治意識に目覚めた市民がまた子供の参画事業に取り組んで、これはいつまでも市が主体でやっているものではないんだということ、そのために今努力をしているんだということかなというふうには感じております。</p> <p>最後に、子供の参画を今度どのように拡充しているのか、伺います。</p>
こども未来局長	<p>各種事業の継続的实施や内容の充実はもとより、より多くの子供たちの参加や参画の場の拡充、さらには、子供の参画を理解し子供を見守る、信頼できる大人の参加、協力が重要であると考えております。具体的には、現在実施している事業の規模や実施回数等の見直しを初め、内容の充実、さらには子供の参画に関する全庁的な取り組みの強化により、より多くの子供の参加が得られるよう努めてまいります。また、地域団体への呼びかけや公開講座等の開催により、子供を見守る大人の育成や事業へのさらなる参加を求めるとともに、子供の意見を取り入れた活動が行政に限らず地域活動などにお</p>

	<p>いても展開されるような手法を検討してまいります。このような子供の参画を推進することにより、次代を担う子供たちがさまざまな子供の参画事業を通して自分たちの住む身近な町の課題について考え、解決のための意見等を述べることで子供の自主性や社会性が養われるとともに、それらの意見等を市政やまちづくりに取り入れることにより子供たちが夢や希望の持てるよいまちづくりにつなげられるよう努めてまいります。</p>
福谷	<p>ぜひとも、これから広げていっていただきたい。今おっしゃいました子供たちが夢や希望を持てるよいまちづくりというのを本当に目指していきたいなというふうに思っています。</p> <p>ところがですね、私は、実はこの子供の参画を今行政として進め、そして、この理念を社会全体で共有することがどうして必要だというふうにひしひしと感じているかというのは、実は若者の現状を知るにつけなんです。今、社会とつながるそのすべを失って引きこもらざるを得ない若者というのは大変多く存在しています。今回、その千葉県では、相談センターをつくるとのことですが、新聞にも何紙か取り上げられていて注目されているということを感じています。そこで、若者支援について、時間が残り少ないですが、時間のある限り伺いたいと思います。</p> <p>まず、平成21年に、子ども・若者育成支援推進法が制定されました。そういった、それは今のような社会背景があったからではないかと思いますが、今、中学校卒業以降の子供たちを対象とした施策展開が求められていると思います。そのためには、まず実態把握をすることが必要であると思いますが、実態把握はどのようにし、現状をどうとらえていますか。</p>
こども未来局長	<p>中学校卒業以降の子供、若者の状況につきましては、青少年サポートセンターと青少年補導員による補導活動や高校等補導連絡会、青少年育成委員会、警察等との連携を通して実態把握に努めており、今後は民生委員、児童委員など地域で活動する方々を通じて調査等を検討してまいります。市内には、学校を中途退学後、目標を失った子供、若者や就職後さまざまな理由から職を失い、途方に暮れ、ひきこもりの状態にある若者等が存在しているものと推察されます。このような状況の中で、子供、若者の社会的自立のおくれに対する立ち直り支援の強化は喫緊の課題となっており、本市といたしましても、中途退学者や長期のひきこもり、ニートの状態にある子供、若者に対する早期の支援の強化が課題であるととらえております。</p>
福谷	<p>やはり実態は、今は推察の域を出ないんですね。以前、私、一般質問で、長期欠席の児童生徒はどのくらいいますかと尋ねたら700人以上いるということがわかりました。だけれども、その子供たちがどういうような状況かというのは、そのきちんとした把握がなかなかできていないというのが現状です。そういうことをまずきちんとこう調べて、調べて公表するというのではなくて、行政としてデータをきちんと持つということが次のステップにつながるというふうに思いますので、取り組みをお願いしたいと思います。</p> <p>次ですが、今回、新たに子ども・若者支援協議会というのが発足いたしました。このような協議会は、年少の児童については要保護児童対策地域協議会がありまして、この協議会は被虐待児童並びにDVを対象としていますが、子ども・若者支援協議会では、どのような課題解決を目指しているのか。また、どのような仕組みになっているのか、伺います。</p>
こども未来局長	<p>協議会の目的は、ニート、ひきこもり、不登校等の社会生活を円滑に営む上での困難を有する子供、若者に対し、教育、福祉、保健・医療、矯正・更生保護、雇用の関係専門機関等が行う支援を適切に組み合わせ、相互に連携して迅速で効果的な支援を行うことにより、子供、若者が社会的に自立することを目指しております。協議会の組織は、大学教授等の学識経験者を初め、関係機関、団体の代表者による代表者会議、相談窓口を持つ機関の担当者による実務者会議、複合的な問題を抱えるケースの場合に、関係機関の担当者で随時開催する個別ケース検討会議の三層構造からなり、健全育成課と青少年サポートセンターが各機関をつなぐ調整機関としての役割を担っております。</p>
福谷	<p>既に2度の代表者会議が開催されていますが、協議内容についてお聞かせください。</p>
こども未来局長	<p>これまで、内閣府のモデル事業の地方企画委員会におきまして、協議会の設立について準備をしてまいりましたが、本年2月に正式に立ち上げ、本協議会の基本的な運営方針の検討や各関係機関の情報の共有、さらには、子供、若者の支援のための環境整備、支援のあり方についての協議を行いました。また、5月の会議では、放送大学の教授による「全国の子ども・若者支援の現状について」の講演や研修、また、8月に開設予定の子ども・若者総合相談センターの具体的なあり方等について検討を行いました。</p>
福谷	<p>私は、若者のその自立支援に向けての最終的な課題は実は就労だというふうに考えていますが、就労支援に関する機関、委員構成はどのようになっているか、具体的にどんな動きをしていくのか、お聞か</p>

	<p>してください。</p>
<p>こども 未来局 長</p>	<p>ニートやひきこもり等の若者の社会的自立のためには、就労に向けて段階的、継続的な支援が重要であると認識をいたしております。そこで、本協議会では、構成機関である産業支援課雇用推進室のほか、ちば地域若者サポートステーションや千葉公共職業安定所・ハローワークとの連携を強化し、若者の状況に応じ就労から社会的自立につながるよう適切かつ効果的に支援してまいります。</p>
<p>福谷</p>	<p>市政だよりでも広報されましたけれども、今どのような動きをしているのか、お聞かせください。</p>
<p>こども 未来局 長</p>	<p>総合相談センターは、心のつながり、社会とのつながりを大切にし、多くの機関がつながって支援するという思いを込めて、愛称をリンクと名づけ、8月1日の開設に向けて施設の改修や看板の作成などハード面での整備を進める一方、市政だよりやホームページ等により、広く市民の方々への周知に努めております。また、開設後の関係機関、団体の連携を実効性のあるものとするため、職員が各関係機関を巡回して具体的な連携の仕方等について意見交換を行っております。さらに、6月末には実務者会議を開催し、それぞれの関係機関の活動状況の情報の共有や役割分担の明確化及び個人情報取り扱い等についての共通認識を図った上で、8月の開設に向け鋭意準備を進めております。</p>
<p>福谷</p>	<p>それでは、最後に運営ですけれども、運営についてはどのように行われるのか。その支援協議会との連携をどう図っていくのか、伺います。</p>
<p>こども 未来局 長</p>	<p>総合相談センターでは、30歳代までのニート、ひきこもり、不登校等の問題を抱える子供、若者とその家族を対象に電話相談及び来所相談を行ってまいります。相談の受け付けは、月曜日から金曜日までの平日と第3日曜日の9時から17時までとし、相談経験が豊富な教員及び精神保健福祉士が相談に当たります。複合的な問題を抱えるケースにつきましては、協議会の関係機関を集め随時個別ケース検討会議を開催し、連携して効果的な支援策を立て、問題解決に向けて継続的に支援を行ってまいります。</p>
<p>福谷</p>	<p>はい、ありがとうございます。実は参画の話をしましたけれども、子供の参画のところにまで出いけない子供たち、若者が実はたくさんいます。そういう若者たちにどう支援をしていくかというのは、実は非常に大きな課題です。今まで、青少年というのは行政の概念になくて、子供でもなければ実は市民でもなかった。それをきちんと市民として、あるいは子供、若者として位置づけてフォローアップし、サポートしていくということは非常に重要なことだと思いますので、ぜひとも力を入れて取り組んでいただきたいということをお願い申し上げまして、私の一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。</p>